

令和7年度市民意識アンケート(ウェブ) 結果報告書

令和8(2026)年3月

行田市

目次

I アンケート調査の概要

- 1. 調査の目的1
- 2. 調査方法1
 - (1) 調査対象者、(2) 調査期間、(3) 調査の実施方法、(4) 回答数
- 3. 注意点1

II アンケート調査の結果

- 1. 回答者の属性（選択式）2-4
 - (1) 年齢、(2) 性別、(3) 居住地区
- 2. 「行田市への愛着」について（選択式）5-7
 - (1) 行田の住みやすさ、(2) 行田に住み続けたいか、(3) 足袋の文化や足袋蔵に対する愛着や誇り
- 3. 市が実施する施策に対する満足度について（選択式）8-12
 - (1) 市内公共交通の利便性について、(2) スポーツ施設や文化・芸術などの発表の場について
 - (3) ごみ収集やごみ処理について、(4) 景観について、(5) こどもまんなか施策について
- 4. 市に対するご意見、ご要望などの自由意見（記述式）13-23

I アンケート調査の概要

1. 調査の目的

市では、市政運営の総合指針である「基本構想」と、これを補完する「実施計画」に基づき、市政を運営しています。この「実施計画」をはじめ、各種計画で設定した「成果指標」の達成状況の把握や、今後の施策の参考とすることを目的として実施しました。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

行田市内在住の方

(2) 調査期間

令和8年1月13日（火曜日）から1月26日（月曜日）までの計14日間

(3) 調査の実施方法

WEBアンケート方式（行田市電子申請・届出サービスによる回答）

※ 電子申請・届出サービスによる回答が困難な場合、紙媒体による回答も可

(4) 回答数

394件(すべてWEBアンケートによる回答)

3. 注意点

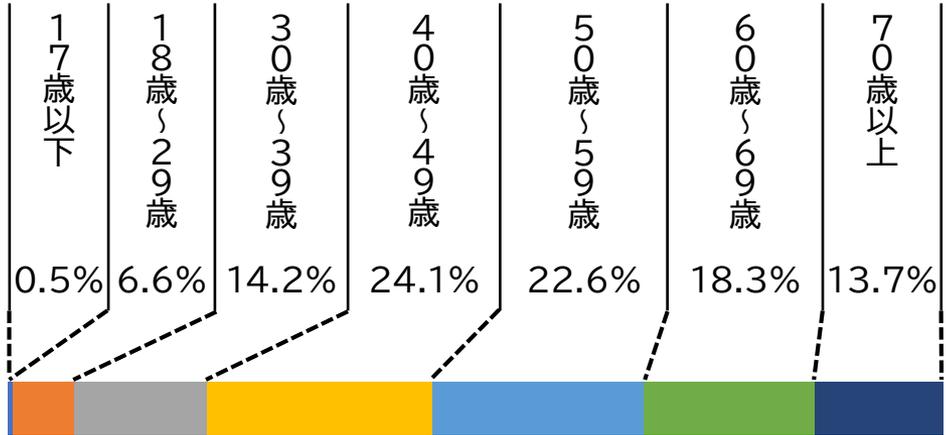
- 各設問の母数(調査の元になる数)は、(n=)で表記しています。
- 構成比は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても必ず100とならない場合があります。

Ⅱ アンケート調査の結果

1. 回答者の属性（選択式）

(1) 年齢 [回答必須] (n=394)

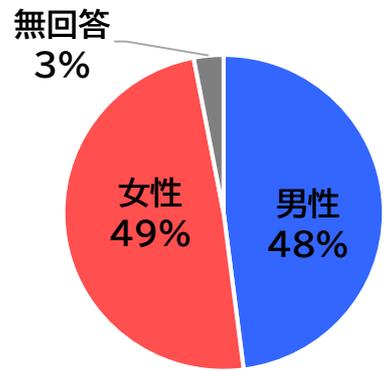
	回答数	構成比
17歳以下	2	0.5%
18歳～29歳	26	6.6%
30歳～39歳	56	14.2%
40歳～49歳	95	24.1%
50歳～59歳	89	22.6%
60歳～69歳	72	18.3%
70歳以上	54	13.7%



(2) 性別 [回答任意]

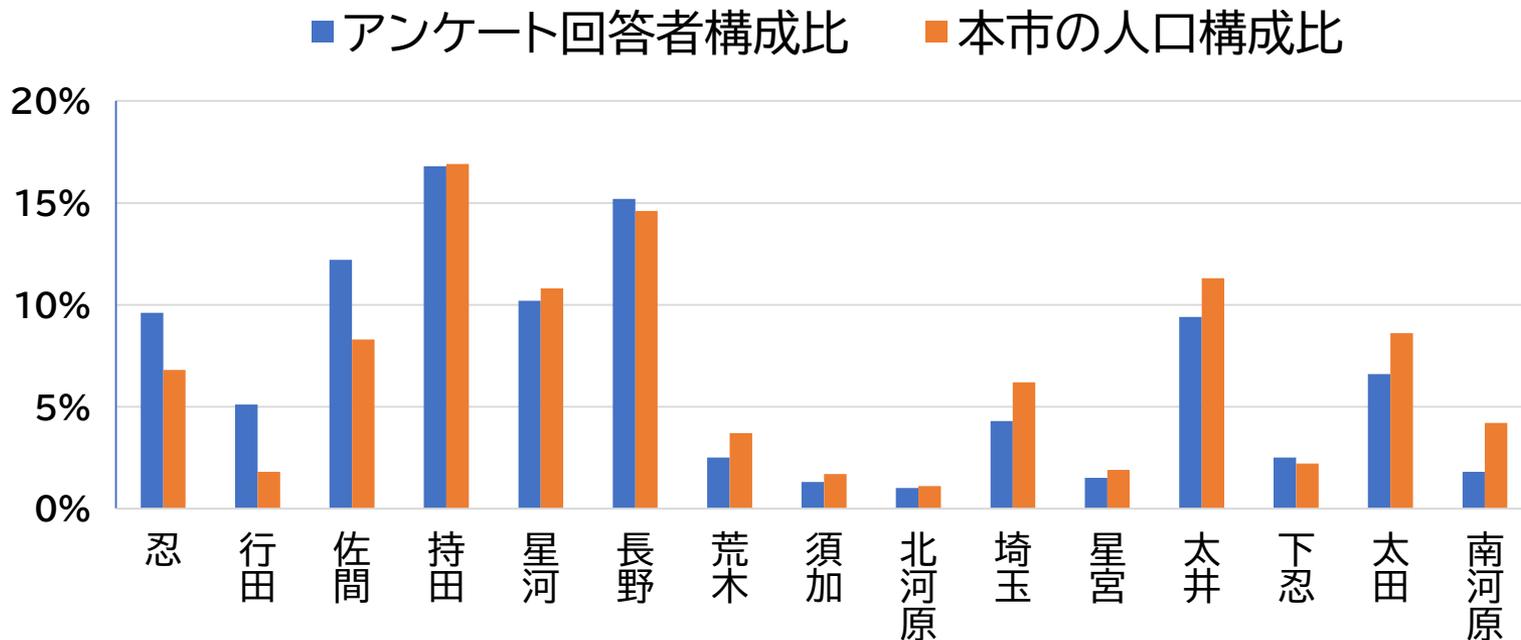
(n=394)

	回答数	構成比
男性	189	48.0%
女性	193	49.0%
無回答	12	3.0%



(3)-1 居住地区 [回答必須]

アンケート回答者の構成比について、持田地区に居住している方からの回答が最も大きな割合を占めています。また、本市の人口構成比と比較すると、全体的に大きな乖離はありませんが、忍、行田、佐間地区に居住している方からの回答割合が比較的多い傾向になっております。



アンケート回答者の構成比(A)	9.6	5.1	12.2	16.8	10.2	15.2	2.5	1.3	1.0	4.3	1.5	9.4	2.5	6.6	1.8
本市の人口※構成比(B)	6.8	1.8	8.3	16.9	10.8	14.6	3.7	1.7	1.1	6.2	1.9	11.3	2.2	8.6	4.2
乖離(A-B)	2.8	3.3	3.9	▲0.1	▲0.6	0.6	1.2	▲0.4	▲0.1	▲1.9	▲0.4	▲1.9	0.3	▲2.0	▲2.4

※令和8年1月1日現在－住民基本台帳の地区別人口構成比

(3)-2 居住地区 [回答必須]

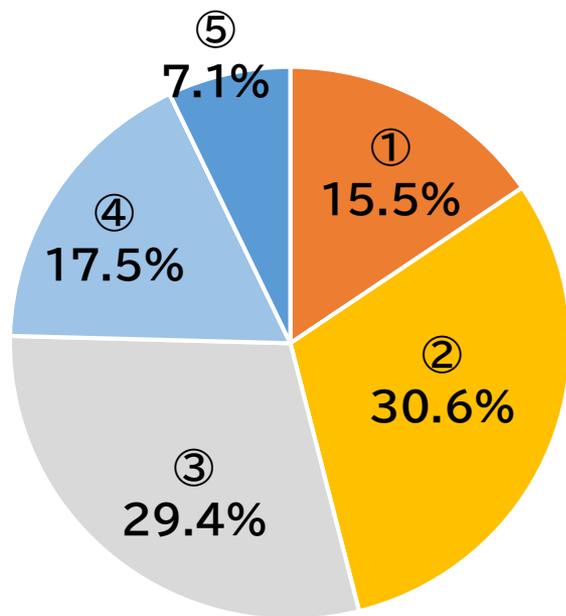
地区名	アンケート回答者の構成比 (n=394)		本市の人口構成比※(n=77,396)	
	回答数	構成比	人口	構成比
忍	38	9.6%	5,279	6.8%
行田	20	5.1%	1,421	1.8%
佐間	48	12.2%	6,417	8.3%
持田	66	16.8%	13,057	16.9%
星河	40	10.2%	8,343	10.8%
長野	60	15.2%	11,300	14.6%
荒木	10	2.5%	2,827	3.7%
須加	5	1.3%	1,348	1.7%
北河原	4	1.0%	842	1.1%
埼玉	17	4.3%	4,803	6.2%
星宮	6	1.5%	1,442	1.9%
太井	37	9.4%	8,719	11.3%
下忍	10	2.5%	1,736	2.2%
太田	26	6.6%	6,640	8.6%
南河原	7	1.8%	3,222	4.2%

※令和8年1月1日現在－住民基本台帳の地区別人口構成比

2. 市への愛着について（選択式）[回答必須]

行田の住みやすさなど、3つの項目について、5つの選択肢の中から1つだけ選んでいただきました。

(1) 行田の住みやすさ

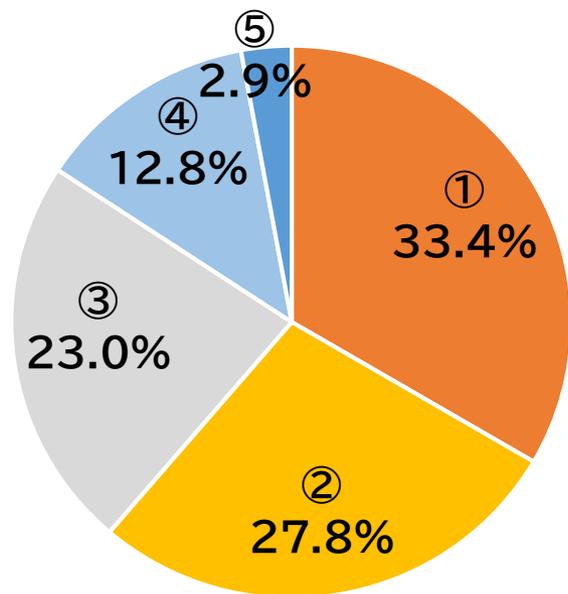


(n=394)

満足度	人数	構成比
① 住みよい	61	15.5%
② どちらかといえば住みよい	120	30.6%
③ 普通	116	29.4%
④ どちらかといえば住みにくい	69	17.5%
⑤ 住みにくい	28	7.1%

- “①住みよい”“②どちらかといえば住みよい”と回答した方が合計で46.1%、“④どちらかといえば住みにくい”“⑤住みにくい”と回答した方が合計で24.6%と、住みやすいと感じている方は住みにくいと感じている方の約2倍の構成比となっています。

(2) 行田に住み続けたいか

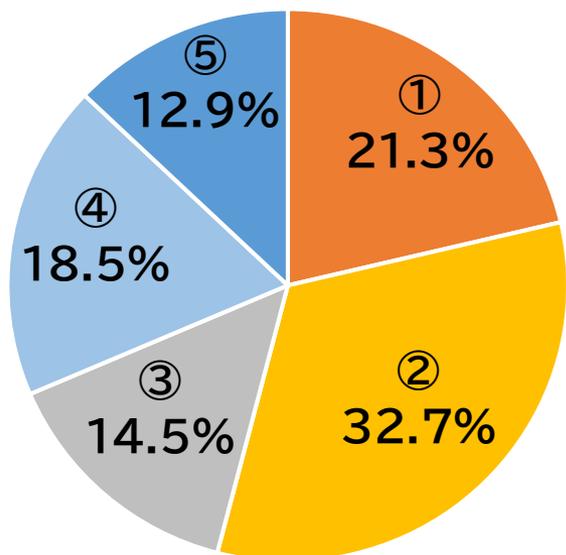


(n=394)

満足度	人数	構成比
① 住み続けたい	125	31.7%
② どちらかといえば住み続けたい	108	27.4%
③ 普通	95	24.1%
④ どちらかといえば住み続けたくない	45	11.4%
⑤ 住み続けたくない	21	5.3%

- “①住み続けたい”“②どちらかといえば住み続けたい”と回答した方が合計で59.1%、“④どちらかといえば住み続けたくない”“⑤住み続けたくない”と回答した方が合計16.7%となっており、回答者の半数以上の方が本市に“住み続けたい”と感じている結果となっています。

(3)足袋の文化や足袋蔵に対する愛着や誇り



(n=394)

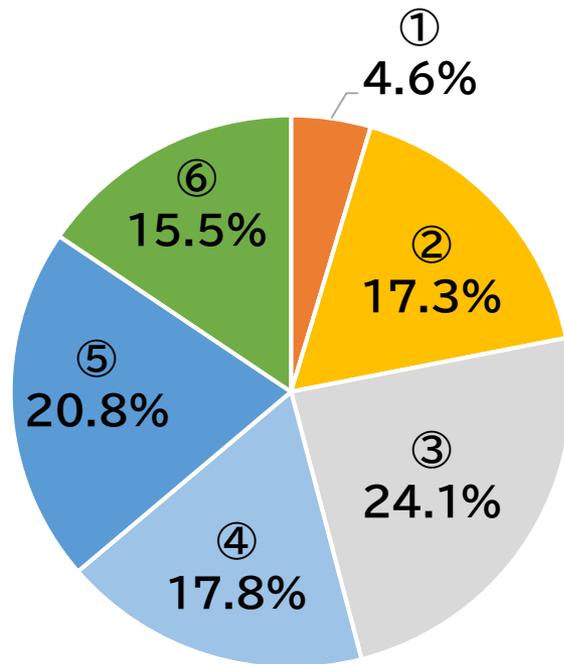
満足度	人数	構成比
① 感じている	84	21.3%
② ある程度感じている	129	32.7%
③ 普通	57	14.5%
④ あまり感じていない	73	18.5%
⑤ 感じていない	51	12.9%

- 愛着や誇りを“①感じている”“②ある程度感じている”と回答した方が合計で54%、“④あまり感じていない”“⑤感じていない”と回答した方が合計で31.4%と、足袋の文化や足袋蔵に対する愛着や誇りを感じている方の構成比が約22%上回っています。

3. 市が実施する施策に対する満足度について（選択式）〔回答必須〕

本市の「地域公共交通の利便性」や「景観」など、5つの項目について、各設問の選択肢から1つだけ選んでいただきました。

(1) 市内循環バス等の公共交通の利便性について

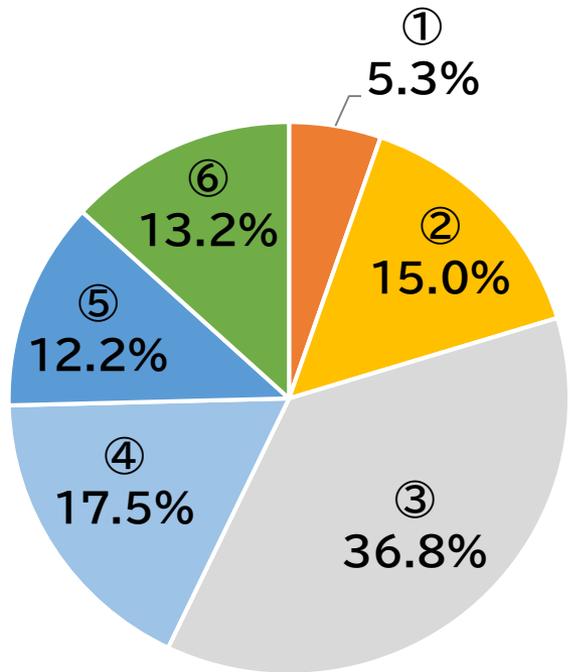


(n=394)

満足度		人数	構成比
	①満足	18	4.6%
	②どちらかといえば満足	68	17.3%
	③普通	95	24.1%
	④どちらかといえば不満	70	17.8%
	⑤不満	82	20.8%
	⑥分からない	61	15.5%

- “④どちらかといえば不満”“⑤不満”と回答した方が合計で38.6%に対し、“①満足”“②どちらかといえば満足”と回答した方は合計で21.9%となっており、市内循環バス等の公共交通の利便性について不満と感じている方は満足と感じている方の約2倍の構成比となっています。

(2) 「スポーツ施設や文化・芸術などの発表の場」について

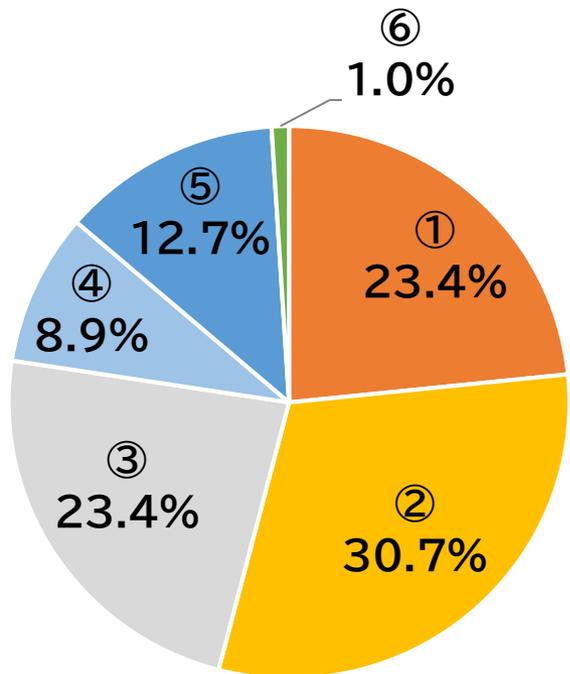


(n=394)

満足度	人数	構成比
①満足	21	5.3%
②どちらかといえば満足	59	15.0%
③普通	145	36.8%
④どちらかといえば不満	69	17.5%
⑤不満	48	12.2%
⑥分からない	52	13.2%

- “①満足”“②どちらかといえば満足”と回答した方が合計で20.3%、“④どちらかといえば不満”“⑤不満”と回答した方が合計で29.7%と、不満に感じている方の構成比が約9.4%上回っています。

(3) 「ごみ収集やごみ処理」について

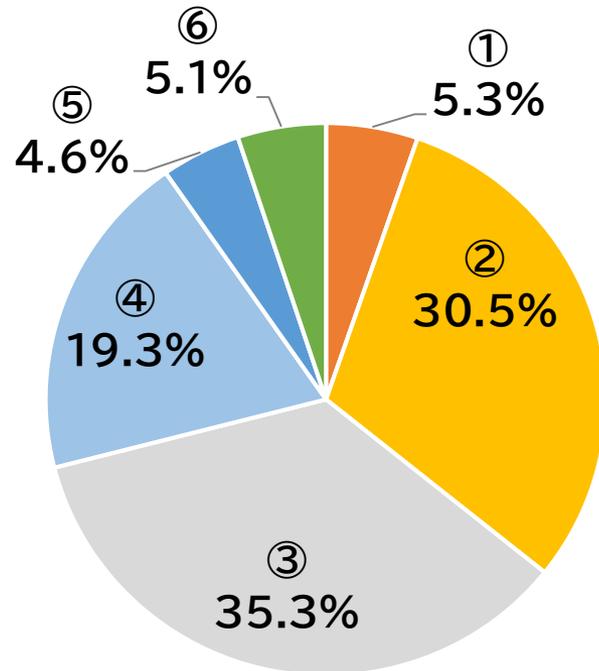


(n=394)

満足度	人数	構成比
①満足	92	23.4%
②どちらかといえば満足	121	30.7%
③普通	92	23.4%
④どちらかといえば不満	35	8.9%
⑤不満	50	12.7%
⑥分からない	4	1.0%

- “②どちらかといえば満足”と回答した方が30.7%と最も多く、“①満足”と回答した方を含めると54.1%と、半数以上の方がごみ収集やごみ処理に対して満足に感じている結果となっています。
- 一方、“④どちらかといえば不満”“⑤不満”と回答した方は合計で21.6%となっています。

(4) 「本市の景観」について



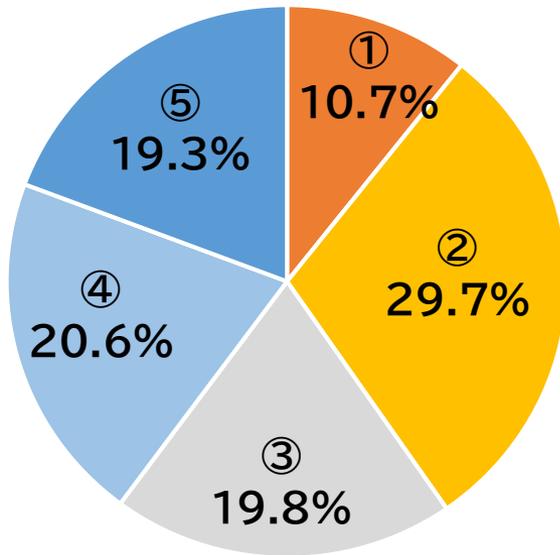
(n=394)

満足度	人数	構成比
①非常に魅力を感じる	21	5.3%
②どちらかといえば魅力を感じる	120	30.5%
③あまり魅力を感じない	139	35.3%
④魅力を感じない	76	19.3%
⑤興味・関心がない	18	4.6%
⑥分からない	20	5.1%

- “①非常に魅力を感じる”“②どちらかといえば魅力を感じる”と回答した方が合計で35.8%、“③あまり魅力を感じない”“④魅力を感じない”と回答した方が合計で54.6%と、半数以上の方が魅力を感じていない結果となっています。

(5) 「こどもまんなか社会の実現に向かっていている」と思う人の割合

(n=394)



満足度	人数	構成比
① ①そう思う	42	10.7%
② ②どちらかというそう思う	117	29.7%
③ ③どちらかというそう思わない	78	19.8%
④ ④そう思わない	81	20.6%
⑤ ⑤分からない	76	19.3%

- “①そう思う”“②どちらかというそう思う”と回答した方が合計で40.4%、“③どちらかというそう思わない”“④そう思わない”と回答した方が合計で40.4%と、同水準となっています。

4. 市に対するご意見、ご要望などの自由意見(記述式) [回答任意]

重点政策1 子育て支援の強化と教育の充実

- 引き続き子育て支援を手厚くしてほしい。
- 子ども関連施策に力を入れてくれておりうれしい。
- 0-3歳の保育園無償化は物価高の中非常に助かっている。
- これからも子育てしやすい環境になっていくことを期待している。
- 保育園の園数を増やしてほしい。
- 子育て支援として、ミルクや紙オムツなど、必要不可欠な消耗品の現物支給を検討してほしい。定期的なコミュニティの場を設け、参加者にこのような消耗品を支給する取組みを推進することで、母親の抱える孤独や不安を軽減できるのではないかと。
- 親となる大人の心の支えと子供たちの成長に必要な実質的な支援を考えてほしい。
- 国道17号バイパス高速道路化よりも子育て支援に力を入れてほしい。
- 就学前の6歳児健診を実施してもらいたい。そして、保健センターで要観察になった際には経過を追ってほしい。
- 子育て世代が安心して暮らせる環境づくりにもっと注力してほしい。
- 保育料無償化はありがたいが、幼稚園・保育園の規模は変わっていないため、どこも満員で預けることができない。
- こども誰でも通園制度は月11時間では時間が足りない。
- 子どもが生まれた時からの正しい抱っこの仕方、足育、口育、離乳食など保健師さんや保育園の保育士さんから学べたり、専門家の公演と実技の機会がほしい。
- こどもまんなか社会を構築するために、公営の産婦人科小児科を開設して従事者を公務員として雇用するのはどうか。
- 「こどもまんなか社会」の実現に向かっていても、子供の数が減少していることは残念なことである。
- 市内各地区にこども食堂等があるが、認知度が低い。稼働日が少ない等の理由で定着率が低いと感じる。
- 下忍小学校の児童数の減少によって義務教育学校の開校を待たず統合されそうになっており、子どもたちは転校を数回余儀なくされそうになっている。「こどもまんなか」というのであれば少人数でも子供に犠牲を強いるやり方は決して容認できるものではない。大人になっても帰ってきたいと思ってもらえるかは、安心して毎日を過ごすことができた子ども時代の記憶次第だと思う。
- 義務教育学校の設立について再検討してもらいたい。長く続いてきた小学校と中学校という学校区分を維持してほしい。
- 市外の学校に通う子どもの給食費補助を再開してほしい。
- 中学校の給食費無償化を希望する。
- 市北部の中学校は生徒数が減っており、教育を平等に受けられていないと感じる。11年後には義務教育学校が開校するが、それを待たず、暫定措置として近隣校への統合を考えてほしい。
- 高齢者や乳幼児の支援は充実していると感じているが、学生用自転車の補助など、中高生に対する支援も実施してほしい。
- 義務教育学校への学校再編について、近隣住民や保護者の理解を得るために説明をきちんと行ってほしい。
- 近くに公園がない、公園を見つけても遊具がなく、子どもを育てるには不十分な環境だと感じる。
- 未就学児が遊ぶ場所の他にも小学生が遊べる集える施設などを増やしてほしい。

- 子どもの居場所について大々的にPRしてほしい。
- 子どもの遊び場がほしい。
- 子連れが気軽に入店できる飲食店が欲しい。
- 行田市の病院は産婦人科がないため、今後出産を控えている人の為にNICU(新生児集中治療室)のある病院があると安心して出産ができると思う。
- 総合公園内に、高校入学前の子どもも遊べるようなアスレチック遊具及び室内で遊べるような場所が欲しい。
- 前谷地区は子どもが行ける範囲内に遊ぶ場所がない。児童館など夏に避暑地になるような子どもが集える場所が学区に一つは欲しい。コミュニティセンターみずしろの児童館も、本や遊具が古いので新しくしてほしい。
- 「こどもまんなか社会」を掲げるならもっと若者の意見を聞いてほしい。
- イベント、子育て支援を含め、若者向けの取組みを行うことで、「行田に残りたい」「行田に住みたい」と思う人が増えていくと思う。

重点政策2 開発の促進と雇用の創出

- 企業誘致に力を入れて法人税の増収分で行政サービスを充足してほしい。
- 他市のような商業施設を市内に整備することで、若者の行田離れを回避できると思う。
- 様々な催し等々実施されているが、人口減が心配である。若者が地元で勤めてくれるよう地元企業と意見交換した方が良い。
- 若い人が働きたくなるような雇用先がなく、賃金も安いので若い人はみんな出て行ってしまふ。
- 商業を発展させ若者から住みたいと思われる町にしていけないと市は衰退していくと思う。
- 子どもや若い人が遊べる娯楽施設や商業施設がほしい。
- スターバックス等の、若者も立ち寄ることのできる場所が欲しい。
- 若い人が集まれる場やお店等を誘致することで、若い人を増やす若しくは行田から転出しなくなるような取組みをしてほしい。
- 大学や他にない専門科目のある特殊職の教育機関を設置することで、若年層を呼び込む等人口増加に資する施策に力を注いでほしい。
- 子育て世帯や若者の移住者を増やしたいなら、公園が併設された大型商業施設やアウトドア施設、ストリート系スポーツ施設など目立つものを誘致するべきである。
- 行田市は歴史がある町であるのに、川越市などと比べて、市内の活気が全く感じられない。特に行田市駅前には、駅前であるにもかかわらず閑散としている。土地や賃料が安価である長所を生かし、駅前や商店街に付加価値のある飲食店や特徴のある店舗を誘致してほしい。
- JR行田駅前に活気がない。コンビニ等もなく遊びに来た人が買い物もできないため人が寄れる場所が欲しい。
- JR行田駅にコンビニ及びカフェを設置してほしい。
- 近隣市はショッピングモールができる等どんどん発展しているのに行田市は何も変わっていない。
- 市内に商業施設やカフェを誘致してほしい。
- 行田は買い物が不便。大きい商業施設がある街に魅力を感じる。
- 映画館、大型商業施設やカフェ等行田市内で楽しめる場所がない。
- 生活に不便はないが、商業施設や道の駅を建ててほしい。

- 行田市は沢山の誇れるものがあるのにも関わらず飲食店が非常に少ない。活気あふれる行田市のために、市内の様々な場所に土産屋や飲食店を誘致してほしい。
- 今の市内にないスーパーを誘致してほしい。市役所近辺にスーパーが少ないのが残念。
- スターバックスの誘致にもう一度挑戦してほしい。
- スターバックスの誘致が中止になってしまい残念。閉鎖的な行田はもうやめてほしい。
- 観光を盛り上げるためにも個人経営のお店を増やしてほしい。
- 日帰り温泉を作してほしい。
- 生活に不便はないが、商業施設や道の駅を建ててほしい。
- 大きな道の駅や地元でしか食べることのできないものが食べられる魅力的な飲食店を今までやってないやり方で設置してもらいたい。
- 水城公園のスタバや古墳の道の駅など頓挫した計画はそのままなのか。水城公園も古墳も良い場所であるのでその魅力を活かしてほしい。
- 高齢者も使える施設や、厳しい気候でも過ごせる森林公園のような緑地、商業施設の誘致を進め、全年代が安心して暮らし続けられる市を目指してほしい。
- 既存の土地や、空き家バンク、耕作放棄地を活用し、大手工業の誘致や人の集まる集合施設エリアの誘致をしてほしい。
- 税収アップのために隣接市と協力し、JR行田駅周辺を「車の寝床から人間の寝床へ」開発誘導(容積率、建ぺい率アップの地区計画等)を行い、交通の利便性が高い立地を活かし、若者に魅力のある新しい街づくりをしてはどうか。
- 市内の子育て支援センターが少なく、兄弟利用や子ども同士の交流が困難である。廃校を活用した学童併設の多世代交流拠点を整備してほしい。
- 人口の流失防止の為、他市にない児童公園を新設してほしい。
- 市役所の駐車場やコミュニティセンターみずしろに飲食ができる施設を整備してほしい。
- 若者が、本を読む楽しさを感じることができる図書館と美術作品を鑑賞することで、想像力を養える美術館、市民の憩いの場になるカフェが併設された施設を整備してほしい。
- 城西地区にあるからくり時計を埼玉りそな銀行前の交差点に移設し、行田市をアピールすることのできる施設にしてほしい。
- 市の中心部だけではなく農村部の環境整備もしてほしい。
- 農地転用したいが、行田市では時間がかかり過ぎてしまい、許可されないため、事業を始めづらい。
- 放置されている土地で協生農法を用いて野菜や果樹を育て、市民なら誰でも収穫していい開放地にすると良いのではないか。
- 農業に対し積極的に支援することによる市内自給率の向上や農産物のブランド化を考えてほしい。
- 野焼きの元の籾殻等の処理方法を地元の大学と研究するなど行政から支援し、若年層を呼び込むための対応をしてほしい。
- 企業コラボなど税収を増やすための市の活性化策がない。土地活用も農業も未来像が具体的に見えない。
- 産業分野に関しての計画が見えない。
- もう少し若者が増えて人が集まるような街にしてほしい。
- 市内中心部から離れた地域は何も変化しておらず、過疎化していく一方であらう。
- 市内中心部だけでなく、それ以外の地域も気にかけてほしい。

重点政策3 交通インフラの整備

- 吹上駅行きのバスを増便、あるいは小型バスを運行してほしい。
- 市内循環バスで病院の玄関まで行けるようにしてほしい。
- 市内循環バスの本数を増やしてほしい。
- 棚田町二丁目バス停から行田総合病院に向け北東方向に走る道路にも市内循環バスを走らせてほしい。
- 市内循環バスについて、平日と休日や利用者の層を踏まえたルート設定や市外の駅に乗り入れられれば需要が増えると考える。
- 路線バスが使いにくく通勤に向いていない。
- バス停まで距離があり本数も少ないため不便である。
- バスの停留所が遠く本数が少ないことやタクシーを使いたくても予約が埋まっている等、地域公共交通の利便性が悪い。
- 家の近くにバスの停留所がほしい。
- バス停がなくなり不便である。
- 駅発着のバスは最終便の時間が早いため、夜間の交通手段が欲しい。
- 市内北部地域はバスが通っておらず、加えて買い物ができる場所もないため、市内南部と比較すると住みやすさに大きな差があると感じる。
- 市内循環バスの料金が値上がりして、利便性が低下している。
- 乗合型AIオンデマンドを近隣市とも提携し、市外でも利用可能にしてほしい。
- 乗合型AIオンデマンドの利用料を減額してほしい。利用可能時間を拡大してほしい。
- 乗合型AIオンデマンドの料金に月の上限金額を設定し、上限を超えた分は無料にしてほしい。
- うきしろ号などの工夫は感じるが分かりづらい。
- シェアサイクルポートを東行田駅や持田駅などの秩父線沿線にも置くなど、数を増やしてほしい。
- 他の方に気を遣うのでライドシェアは使いたいと思わない。
- 行田市駅にエレベーターまたはエスカレーターを設置してほしい。
- 行田市駅のバリアフリー化を進めてほしい。
- 行田市駅のスロープを活用して車椅子での利用が何時でも自由に出入りできるスマート改札東口を新設する。
- JRの駅が市中心部から離れており不便。秩父鉄道は割高で本数も少なく、学生は住みにくいので高齢化は仕方ない。
- JR行田駅は市の中心から離れているため、市民が有効活用できていない。
- 公共交通機関が不便。秩父鉄道の運行本数を増やし、市から新幹線通勤通学に補助を出すことで、行田から東京に通学通勤できる市民が増え、若い人たちが市外に流出しなくなると思う。
- 観光地でもなく商業地でもない曖昧な地域感で全体的に地味な印象である。最近は観光客が増えている雰囲気もあるが観光地として発展するには、史跡に付随して食べ物やお土産を充実させることや、アクセスの利便性が必要である。各観光スポット同士の距離と秩父鉄道、JRの駅の距離が離れているにもかかわらず交通手段がないことが問題である。
- 市のイベントや祭りに参加したくても行くための手段がない。
- 車がないと生活しづらい。
- 単身高齢者の対応や空家問題、公共交通機関に問題があると思う。
- 市内公共交通機関の利便性が悪い。

- ・ 歴史に詳しい知人曰く、行田は魅力しかない街とのことである。ポテンシャルの高さを活かすためにも、市内の交通網をもっと充実させてほしい。
- ・ 国道17号バイパスの高速道路化及びインターの誘致に期待している。

施策1 健康づくりと福祉の充実

- ・ 高齢化が進んでいるなかで、手間暇かけずに用事が済ませるようになってほしい。
- ・ 高齢者が楽しく明るく生きられる市であってほしい。
- ・ 高齢化対策が中途半端でその利用価値よりも利用を諦める人の方が多い。
- ・ 子育て支援だけでなく、定年後の雇用など高齢者に対する支援もしてほしい。
- ・ 移動販売を西新町子供広場でも実施してほしい。
- ・ 市内の小児科が少なく、子供が発熱したときに診てくれる病院がない。
- ・ 病気で通院する際など市内に診療科がない場合は市外まで行く必要があるため、市内の病院だけで治療が受けられるようにしてほしい。
- ・ 病院が減っていることに困っている。
- ・ 他市が支給している難病患者見舞金を行田市でも支給してほしい。
- ・ 国の政策には子どものいる世帯や非課税世帯、高齢者などに対する支援制度が多いため、働いている人にもメリットのある制度があると良い。
- ・ 普通に働いている低所得者への支援施策がほしい。
- ・ 子育て世代や子どもだけでなく子どものいない家庭や独身の人達にも優しいまちづくりをしてほしい。

施策2 市民の安全・安心の確保

- ・ 安心して住みやすい魅力のあるまちにしてほしい。
- ・ 子供が安心して通学できる環境にしてほしい。
- ・ 保護者の負担が大きいため、小学校の帰宅時の見守りを保護者ではなく、見守り隊にしてほしい。
- ・ 北河原地区の土手側に防犯カメラをつけてほしい。
- ・ カーブミラーが角度的に機能していないところがあるため、定期的に見直しをしてほしい。
- ・ 夜道が暗く街灯を設置してほしい。
- ・ ゴミ回収車の安全運転について呼びかけてほしい。
- ・ 公共施設の外灯が消えているので直してほしい。
- ・ 防災無線が全く聞き取れない。
- ・ 南大通沿いの街路樹が大きくなり高い電線に枝がかかっているため枝を切ってほしい。
- ・ 防犯パトカーの実績について市報でPRしてほしい。
- ・ 自立しても行田市に住みたいと思うが、学生の飛び出しや2、4列で登下校している学生が多く、車が来ても避けないことがあるため不安である。もう少しマナー的な教育を実施してほしい。
- ・ スケボーに乗って車道や私有地で騒いでいる学生を取り締まってほしい。

施策3 地域コミュニティと市民活動の推進

- 市民の郷土愛の醸成に努め、市民がシビックプライドを持てるようにしてほしい。
- 市民を中心に、人が集まることのできる場所、エリアを作してほしい。
- さきたま古墳公園や総合公園などの広い場所に多くの人たちが集まることのできるイベントの実施や店舗を設置してほしい。
- 市民が集まるイベントを毎月2回土曜日に決めて開催してもらいたい。
- お祭りのようなイベントごとをもっと増やしてほしい。
- 平日の朝健康体操などもう少しイベントを実施してほしい。
- 高齢化、核家族化が進む中で、子育て世代よりも上の世代の方々が地域とのつながりを感じることでイベントの開催や、子育て世代を支援できるような役割を担える環境の創出など、世代を超えて関わりいきいきと暮らすことのできるまちになってほしい。
- 高齢化が進むことで市内自治会の活動が困難になるため、住民税を上げる等の手法で税収を増やし、自治体が支援できることを増やしてほしい。
- PTA、学校役員も隣市はほとんど親の負担を減らしているのに、行田市は昔のまま。各自治体や子供会も昔のままで遅れていると感じることが多々ある。
- 人口減少に対する対策が大いに不足している。未婚者の交流の場の創出やお見合い支援など婚姻数を増やすための策を講じてほしい。
- 外国籍の方の交通マナーが悪く交通事故が心配である。
- 歩行者や自転車に乗っている外国籍の方も多く見られ、夜間の犯罪など心配である。
- 市内は工場や倉庫などばかりで外国人が増えて治安も悪くなっており、もっと若い人が活躍できる場が欲しい。
- 外国人を大切にしてほしい。
- 総合公園内の周回路のトラックや遊歩道の煉瓦畳の整備をしてほしい。
- 各々の小中学校のプールを統合させて市民プールを復活させてほしい。
- 健康のため及び身体を鍛えるためにグリーンアリーナのトレーニングルームを使っていたが、今は料金が安い隣の市のジムを使ってしまっている。利用料について再検討してほしい。
- スポーツや文化・芸術についての講座や市民大学をもっと開催してほしい。
- 市民体育祭はなくしてほしい。
- 体操教室など市内の習いごとの種類を増やしてほしい。
- 地元のお祭りなど前年踏襲で実施するのではなく、地域の実情や意向に合わせて実施するの可否を検討してほしい。
- 二十歳を祝う会の記念品や催し物などについて検討してほしい。看板を会場外に設置してほしい。
- 行田の足袋蔵や足袋の県内での知名度は低く、見どころはたくさんあるのに市民でさえも知らない人が多くもったいない。若い人に協力してもらおうなど発信にもっと力を注ぐべきである。
- 子どもたちが足袋に触れたり、足袋を作る工程を見ることができ、機会を設けるべきである。
- 足袋蔵ミュージアムは平日開館していないのがもったいない。人員確保して運営するべきである。

- 足袋のまちなので、着物のレンタルや着付けを安価で頼める場所を設けてほしい。
- 足袋の魅力がよくわからない。
- 行田市は文化財が豊富にあるのでそれらをもっと活かしてほしい。
- 旧彩々亭を有効活用してほしい。
- 足袋蔵の保存以外にも、かつて病院だった古い洋館も保存してもらいたい。

施策4 持続可能な都市基盤整備

- 行田市駅北口道路に歩道を整備してほしい。
- ベビーカーでも安心して散歩ができるよう歩道を整備してほしい。
- 道路維持管理の強化と歩道上の街路樹をなくしてもらいたい。
- 生活道路の舗装がボコボコで困っているため、舗装し直してほしい。
- 市の生活道路について、白線が消えていて見えない箇所や、道路上に鉄蓋が突出してる箇所が多いので整備してほしい。
- 八幡通りの道幅を拡張してほしい。
- インフラ設備(水道等)の老朽化対策はどのような計画で進めているのか知りたい。

施策5 快適な住環境の整備

- 歴史のある景観を生かして、おしゃれな街にしてほしい。
- 足袋蔵や歴史的建造物なども修繕されていないものが多く中途半端な印象である。
- 足袋蔵のまちの景観に不釣合の新町アーケードの撤去を公費で実施してもらいたい。
- 足袋蔵外観リフォーム費用を全額公費で補填して、足袋蔵の街造りを一気に呵成に推進して景観を整えてもらいたい。
- メイン通りある新町通りの寂しい景観を整備してほしい。
- 街中はシャッターで閉まっているところが多いため明るくしてほしい。
- まちの景観を綺麗にすれば、犯罪が減り観光が活性化され、市民も過ごしやすくなると思う。
- 市役所通り、県道128号線沿いの城下町漂う景観づくり、街づくりに力を注いでもらいたい。景観づくりに当たっては各年代の(10代から81代以上)一般市民に呼びかけてチームを作り、多様な意見を盛り込んでほしい。
- 行田総合病院からJR行田駅に向かって見える富士山が絶景であるが、電柱が見映えを悪くしてしまっているため電柱を埋設してほしい。
- 浮き城通りにあった、銅人形や案内版を修繕して景観を保ってほしい。
- 行田駅にあった、愛の泉像を駅に戻してほしい。
- 歩道は雑草のせいで歩きづらくて車道を歩かざるを得なくなっている。
- 空き家や川沿いの雑草などが目立つため、整備して町の景観が良くなる工夫をしてもらいたい。
- 空き家が多すぎて危険なため行政が介入し、何とかしてほしい。
- 市の公園にある砂場の砂は定期的に入替えが行われているのか気になる。
- 古代蓮の里や埼玉古墳、緑道周辺の道路や公園内の雑草の処理が疎かである。
- 古代蓮公園常緑樹の所に紅葉するモミジを植えてもらいたい。

- 現在整備中のさいたま古墳公園のさいたまテラス側の公園整備完了後、市が管理委託を受けてグラウンドゴルフ場、ターゲットボードゴルフ、子どもたちの遊びの広場等として使用するなど、多目的に利用可能な公園にするのはどうか。
- 公園を新たに整備するのは良いが古い遊具やベンチ、トイレを修繕してほしい。
- 高温で燃焼できるごみ処理施設を早く作ってほしい。
- プラスチックも燃えるゴミになるように焼却場を整備してほしい。
- ゴミ焼却の熱を利用した温水プールを作ってほしい。
- 燃えるごみをビニールの袋でも捨てられるようにしてほしい。
- 可燃不燃ゴミの分別回収を廃止して混合回収してほしい。
- 燃えるごみの回収日を減らして缶と瓶の回収日を増やしてほしい。
- ごみ収集について、他市のごみ収集事例を参考にしてみしてほしい。
- スプレー缶をアルミ缶でゴミ出しができず不便を感じる。
- ペットボトル等のリサイクル品はスーパー等のリサイクル場で回収されているが、リサイクル場に持って行けない人や持って行くのが面倒な人は、ゴミに出している。ごみ収集にペットボトルの回収は追加できないか。
- ゴミ出しが分かりづらい。
- 近隣市を参考とし、ゴミ捨てに使用する紙袋の問題、農家の野焼きの問題、交通の利便性の問題など検討してほしい。
- 行田に引っ越し少し経ったが、瓶の捨てるところがわからず、困っている。ゴミの収集の場所をアプリやゴミ捨て場に記載してほしい。
- 分解レジ袋を無料化する。
- 市のゴミ袋の改良を実施し、紙袋や段ボールなどでゴミ捨てをする人がいなくなるようにしてほしい。
- 不燃ごみの回収日が「月・木曜日地区」と「火・金曜日地区」があるが、月曜祝日の日が多く、ゴミ収集がされないのが不公平である。
- 月曜祝日の場合、燃えないごみの収集がされないのが不便であるため、祝日もごみ収集をしてほしい。
- 観光について、花水手タウン特別企画のプロジェクションマッピングはよかったがその後の展開が見えない。他市の花火大会内でのドローンショーのようなことを市でもやるべきである。
- 花水手が全国的に有名になったので、観光客用のトイレを設置してほしい。
- 花水水や蔵めぐりなどのイベントは、一部の人、店舗しか恩恵を受けていないと感じる。
- 花水水のイベントはとても良いと思うが、盛り上がりきれてない感じを受ける。
- 花水水は地図に載っていない場所でも出ているところが複数ある。
- 市内の観光スポットが点在しているので、ある程度まとまっていると良いと思う。
- 点在する観光資源を移動手段も含めて結び、面的にブランディングすべきである。
- 浮城まつりの出店について市外の業者ではなく、市内のキッチンカー等を中心に呼ぶべきである。
- 忍城を中心に近辺を散策している人を見かけるが、休める場所がないと言う声を聞いた。
- 10年前は寂れたシャッター街の人通りのない街で心配していた。最近は花水水や田んぼアート、足袋関連等の効果により歩行者や県外ナンバーの車、レンタサイクルで移動している人を見かけるようになり賑わいを感じているが、行田市全体でというわけではなく一部分の盛り上がりということが否めずそれがとても残念である。

- 最近メディアでの広報も増えて、行田に観光に来る人も増えていると感じる。
- 行田タワーのように市内の他の観光スポットも活用してほしい。
- JR行田駅前の貸出し自転車は10時から17時までしか利用できず、駅を利用して観光に来る人はゆっくり観光することができない。
- 渋滞のないのが行田の良さと感じているが、あまりに閑散としているのも寂しい。観光施策の方向性をもう少し示してほしい。
- 歴史的資源が豊富な街なのにそれが観光と上手く結びついていない。
- 観光施策について訪れた人が、楽しくお金を落としてくれるようにしてほしい。
- 観光客誘致等の施策について、その場しのぎかつ各部署がバラバラに行っている感が強く、中長期的な構想が見えない。市が目指す方向性を市民に示したうえで、各部署が連携し、市民も巻き込んで進められる施策を期待したい。
- 市内に観光客を誘致できていても、受け入れ体制が整っておらず民間頼みになっている。
- 都心からのアクセスも非常に悪く観光地に向いていないのに中途半端に注力している。
- 田んぼアートの絵柄が鬼滅の刃に決まり、他県からも観光客が増えたにも関わらず食事処やお土産など観光客がお金を使う所には手を加えておらず疑問である。
- お祭りにスペシャルゲストを呼んで盛り上げてほしい。
- ポケモンマンホールを誘致して観光に努めてほしい。
- さきたまテラスは通りに背を向けていて、やる気が見られない。民間の活力を生かそうとすれば、反対し水を差す人もいる。市長の強烈かつ強引なリーダーシップに期待している。
- 古代蓮の里は田んぼアートの影響もありで魅力が増幅されていますが、周辺資源を活用するなどの工夫によって更に地域活性化に繋がると考える。例：市内に点在する水城公園、さきたま古墳公園、古代蓮の里を線で結ぶ工夫による魅力のアップ など
- 古代蓮の里を春夏秋冬楽しめるように季節ごとの花を植えたり、お店の種類を増やしたりして通年楽しめる場所にしてほしい。
- 古代蓮の里は飲食店、売店があるのに人が少ないため、通年楽しめるようにしてもらいたい。
- 道路の草取りを持田地区の任意でやっているが、高齢化により継続が困難なため、市で対応してほしい。
- 歩道の除草がまばらであるため差が出ないように除草してほしい。
- 田畑の「野焼き」を市の条例等で禁止してほしい。
- 行田駅前や市駅前を活性化してほしい。
- JR行田駅東口の賑わい創出が必要である。
- 自治会のあり方について
 - ・回覧板・市報等(市からの配布物)を電子化し、紙が必要な人は申込制とし郵便配達にする。
 - ・ゴミ袋を有料化し自治会に加入しなくても市民なら誰でも出せるようにする。
 - ・共働き世帯のために時間帯関係なくごみを出せる場所を各地区で設ける。
 - ・自治会の班は災害時等助け合う為にだけ活動する。
 このような形が望ましいと考える。
- 太陽光発電施設設置についてもっと規制すべきである。
- 自宅に居ると道路を走る車からの振動や音が酷い。
- 行田市に来る人に感心してもらえるようなものが欲しい。

施策6 行政運営の効率化

- ・ 市役所を行田市らしい外観、内装に建て直してほしい。
- ・ 魅力ある返礼品を開発し、ふるさと納税を強化するなど自主財源確保を進めるべきである。
- ・ 行田の足袋蔵や足袋の県内での知名度は低く、見どころはたくさんあるのに市民でさえも知らない人が多くもったいない。若い人に協力してもらうなど発信にもっと力を注ぐべきである。
- ・ 市の活性化に繋がる企画を多く発信してほしい。
- ・ 市で工事を実施する際はLINEやSNS、紙面でお知らせしてほしい。
- ・ 今後行われる新ゴミ処理場の建設や学校再編、市のイベントなどの情報をメールで通知してほしい。
- ・ 市が実施する施策についてのプロモーションが不十分だと感じる。
- ・ 市報ぎょうだの最終ページは市長のコラムではなく市民団体の活動を紹介したほうが良いと思う。
- ・ 若者の楽しみを摘み取るのではなく、市民の為、子どもたちのための市政をお願いしたい。
- ・ 若者の流出を抑えたいなら、若者に寄り添った政策をしてほしい。
- ・ 施策にもっと若者の意見を取り入れてほしい。
- ・ 40歳以下、大学生、高校生等の若年層に話を聞く機会を増やしてほしい。
- ・ 若い人の意見をもっと反映してほしい。
- ・ 子育て世代が気軽に市長に意見が言える場が欲しい。
- ・ 新しい施策を実施する際、市民との対話の場を設けてほしい。
- ・ 市で何かを決定する際、市単独で決めるのではなく、意欲のある市民を公募し、市役所と市民で一体になって進め手もらいたい。
- ・ 市民や移住を考えている人が何を求めているのか考えて市政運営してほしい。
- ・ スピード感を持って市政運営してもらいたい。
- ・ 市の対応が他の市と比べて遅い。
- ・ こどもまんなかということで様々な子育て支援策が実施されているが、子どもがいない世帯も同じように税金の負担をしている。片寄った税金の使い方はやめて公平な市政運営をしてほしい。
- ・ のんびりした田園風景を残す郊外型住環境の良さを残しつつ、街なかの商業発展、観光開発、景観整備、工業団地への企業誘致など、積極的に開かれた、分かりやすい市政運営をしてほしい。
- ・ 常に市民ファーストの意識で市政運営をしてほしい。
- ・ 子育て支援については良くなってきていると思うが、その他にも支援すべき対象や実施しなければならない施策があると思う。
- ・ 交通の便は悪く、店が少ないため市に魅力を感じられない。市民にもっと施策で還元してほしい。
- ・ 市が実施する施策や施策の変更等が全体的にわかりにくい。
- ・ 歴史や観光客の誘致も良いが、市民が近隣市よりも行田市に住みたいと思える施策を打ち出してほしい。
- ・ 様々な世代が住みよいたと感じるような政策を期待している。
- ・ 誰の目にもわかりやすいインパクトのある施策を実施してほしい。
- ・ 時代に合った先を見た施策を実施してほしい。
- ・ 地域の実情を更に調査及び意見の収集をした上で、今の行田市の状況に合わせた施策を考えてもらいたい。

- 手を尽くしてはいると思うが、他市に負けないようにこれからも頑張してほしい。
- 茨城県境市のような大胆な政策をしてほしい。
- 周辺市に比べ、行田はインフラや経済力で不利な面があるため、単独完結型ではなく、近隣自治体や民間企業との連携を広げ、市民サービスの総合力を高める戦略が必要である。
- 人口が最も多い時と比べ約10,000人減り、形ばかり先行し将来に向け具体的に何をどうするのが見えない。足袋蔵の日本遺産認定、交通利便性の向上、ゴミ処理、公共施設問題、こどもまんなか社会等々、更に人口減少が進む中で将来計画が不安である。
- 少子化を止めるのではなく、少子高齢化時代を如何に迎えるべきか考えたほうが建設的だと思う。
- 市政全般に言えるが、小中学校の統廃合然りスターバックス出店然り、民間事業者の利益、利権を優先しすぎていると思う。これらは、転出ができるパワーのある子育て世代には見透かされてしまうため、利権受益者と貧困層以外は他の市に移ってしまうことが容易に想像できる。その点を含め、もう少し市政のあり方を見直してほしい。
- 新しい構想をどんどん取り入れ、新しい行田、住みよい行田を構築してほしい。
- 自治会も高年齢化により役員や班長のなり手が少ないため、市報等の配布物は市で配布してほしい。
- 足袋蔵ミュージアムは平日開館していないのがもったいない。人員確保して運営するべきである。
- フラベえ&こぜにちゃんを派手なデザインに一新してほしい。
- 水道基本料金を無料にするよりもおこめ券を市民全員に配るべきである。
- 市役所は窓口ごとに、返ってくる答えが異なるため市役所内できちんと情報共有してほしい。
- 市役所の窓口が明るくなった。これをさらに前進させてほしい。
- 市長が頑張っていることは感じられる。今後も引き続きお願いしたい。
- 市長が変わり、全体的に良い傾向になっていると思う。今後も期待している。
- 消滅可能性都市はもはや避けられないのに市の危機感が非常に薄いため、そのことが市民に十分に伝わっておらず、市民同士でも考え方の相違が日増しに大きくなっている。自治体として現実に対し誠実に向き合わない限り市民からの信頼は得られないことを充分理解する必要がある。
- 新しい施策を実施しようとする際に、地域等の反対により取り組めないことがある。そういったことの改革をしないと、いずれ行田市は消滅してしまう。
- 市民は昔から新しいことを始めようとする、新しいことに反対する気質があり、結果衰退してしまう。地元にしがらみのない市長に変革する姿勢を期待する。
- 新しいことに対して閉鎖的になるのはやめてほしい。
- 市が変わって行くために昔ながらの考えは捨ててほしい。
- 将来残る行田にしてほしい。
- 若者が希望を持って生き生き前向きな生活ができるような雰囲気があると良い。
- 行田の魅力はたくさんあり、伸び代もあると思うため、是非盛り上げてほしい。

ご協力ありがとうございました

令和7年度市民アンケート結果報告書
令和8年3月

行田市総合政策部企画政策課
〒361-8601
埼玉県行田市本丸2番5号
電話 048-556-1111(代表)
メール kikakuseisaku@city.gyoda.le.jp